



IOI2018 日本開催決定!

2014年7月13日から7月20日に台北市で開催された第26回 国際情報オリンピック台湾大会 (IOI 2014) 中の国際情報オリンピック総会におきまして、2018年に第30回国際情報オリンピック (IOI 2018) を日本で開催することが発表されました。

日本で開催する IOI 2018 の成功にむけて、みなさまからご支援を賜りますようお願い申し上げます。

回数	開催年	開催国
第27回	2015年	カザフスタン
第28回	2016年	ロシア
第29回	2017年	イラン
第30回	2018年	日本



第26回国際情報オリンピック (IOI 2014) 台湾大会

中学生の 高谷君 金メダル

伊佐君・小倉君 銀メダル 佐藤君 銅メダル

第26回国際情報オリンピック (IOI 2014) は2014年7月13日～20日に台湾・台北市において81の国と地域から311人の選手が参加して開催されました。日本代表選手4人全員がメダルを獲得し、メダル獲得数による国別順位は11位 (1位アメリカ・中国、3位イラン・オーストラリア・ロシア、6位韓国、7位シンガポール・ブルガリア、9位タイ、10位台湾、11位日本・ルーマニア) でした。



表彰式後の代表選手4名
(左から 小倉拳君、高谷悠太君、佐藤竜馬君、伊佐碩恭君)



開会式後の日本選手団 (前列 選手4名。後列左から 城下慎也 随員、今西健介 随員、保坂和宏 副団長、伊藤哲史 団長、日本チームガイド 沈子安 さん)



IOI2014 日本代表選手の成績

金メダル	高谷 悠太	開成中学校 (東京都)	中学3年
銀メダル	伊佐 碩恭	開成高等学校 (東京都)	高校1年
銀メダル	小倉 拳	灘高等学校 (兵庫県)	高校3年
銅メダル	佐藤 竜馬	大阪府立茨木高等学校 (大阪府)	高校3年

(学年は2014年7月時点、同賞内氏名50音順)

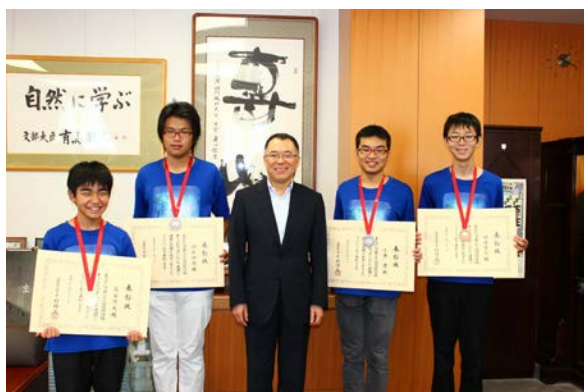
JOI 台湾大会スケジュール

日本選手団 スケジュール		
7月12日 (土)	派遣直前研修・壮行会	成田エアポートレストハウス
7月13日 (日)	出国	成田空港発 11:15 JL805 (日本航空)
	台湾着	台北 (桃園空港) 着
7月14日 (月)	練習ラウンド	9:30~12:00
	開会式	14:00~16:00
7月15日 (火)	競技第1日	9:00~14:00
7月16日 (水)	エクスカッション(小旅行)	National Center for Traditional Arts & LanYang Museum
7月17日 (木)	競技第2日	9:00~14:00
7月18日 (金)	エクスカッション(小旅行)	Lihpaoland Amusement Park
7月19日 (土)	表彰式・閉会式	午前中 Activity (交流) の時間, 13:30~16:00 表彰式・閉会式
7月20日 (日)	台湾発	台北 (桃園空港) 発 12:50 JL804 (日本航空)
	帰国	成田空港着 17:10
8月1日 (金)	表敬訪問	文部科学省 13:15~13:30

※時刻は、すべて現地時刻で表記

JOI 文部科学省を表敬訪問

IOI2014 台湾大会へ参加した日本選手団は、8月1日、文部科学省を表敬訪問しました。メダルを獲得した選手たちが山中伸一文部科学事務次官より表彰され、記念品を授与されました。その後、IOIに参加した感想などについて和やかに懇談が行われました。



記念撮影 (文部科学省にて)

左から:

高谷君、伊佐君、山中伸一事務次官、小倉君、佐藤君

山中事務次官と談笑→





IOI2014台湾大会 ギャラリー ①



7月12日 派遣直前合宿



7月13日 成田空港出発



台湾到着 競技会場の TICC



7月14日午前 プラクティスの様子



7月14日午後 開会式の様子



「IOI」の人文字



7月14日夜 翌日の競技課題を随行員たちが翻訳



食事中、海外の選手と交流



7月15日 競技第1日



競技後の解析



7月16日 エクスカーション National Center for Traditional Arts & LanYang Museum





IOI2014台湾大会 ギャラリー ②



7月17日 競技第2日



競技後



7月17日夜 台北101タワーにて



7月18日 Lihpaoland Amusement Park



7月19日 表彰式・閉会式



中国の選手と



ロシアの選手と



リビアの選手と



皆さんお疲れ様でした





選手の感想から (一部抜粋)

伊佐 碩恭 君

今回は僕にとって初参加の IOI でした。

まず競技について書くと、40位で銀メダルでした。問題については、やはり良問が多く解いていてとても楽しかったです。結果に関しては、目標としていた銀メダルが取れたのでとても安心しています。金メダルまではあと26点で、Railで56点をとるかHolidayを完答するかが出来れば届きましたが、悔いは無いです。来年はこの差を埋め、金メダルが取れるように引き続き努力しようと思います。

エキスカーションでは、1 回目は宜蘭という所に行き、お寺や古い家を訪れたり、DIY(体験学習のことだと思います)で駒に色塗りをしたり、宜蘭についての博物館で色々な物を見物しました。また、2 回目は台中市にあるアミューズメントパークへ行き、ジェットコースターに乗ったり、波があるプールで泳いだり、非常に速度のつく(命の危険を感じるレベル)ウォータースライダーに乗りまくったりしました。非常に良い経験になるので思い切り楽しむと良いと思います。

国際交流については、主に韓国と台湾の人々と交流しました。様々なトランプゲームをしたり、jubeat などの音楽ゲームをすることが多かったです。また、けん玉や折り紙などの Japanese Traditional な物を習得しているとコミュニケーションが取りやすくなると思います。最終日の Farewell Party では様々な国の人がお土産片手に交流するので、自分で名刺やお土産を持っていくと良いと思います。

まとめの感想としては、非常に充実した IOI だったと思います。競技も実力が出し切れ、国際交流も結構出来ました。今回満点を取り優勝した Scott Wu さんや Ishraq Huda さんと握手したのはとてもいい思い出です。来年はちゃんと春合宿で 4 位以内に入り、今年の反省を活かしてもっと充実させられるように、また金メダルが取れるようにします。

最後に、IOI の運営に携わった方々、ボランティアの方々、お世話になったガイドの方、また IOI に参加させてくださった JOI 関係者の方々に感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

小倉 拳 君

宿では出来る限り人と話すことに努めた。プログラミング、特に競技プログラミングへの振る舞いというのは、各々のお国柄が現れる。問題へのアプローチや、親しみ深いアルゴリズム、データ構造も違う。私が JOI で得たものとは異なった勘を持つ外国のプログラマー達と話すことは、私のこれからの競技プログラミングへの考えをより極まったものにしてくれる。JOI から支給されたボールペンや予め用意していた名刺を使い多くの交流をした。初日はあまり振るわなかったが、交流イベントなどで大会全体の雰囲気に乗ることは成功できた。

代表選考合宿では毎日競技開始前にその緊張と戦ってきた。しかし、意外にも IOI ではその緊張はなかった。その理由はすぐに分かった。集中していなかったのである。選考合宿では全ての問題を解ききるか、競技時間が終わるまで、問題以外のことを考えることはなかった。しかし今回は、いろいろなことを考えてしまった。IOI までにやってきたことやこの後のこと。様々な人間関係。本当にいろいろなことを考えてしまった。そのような状態の中、なんとか自分の解ける問題は解ききることができた。終了後、公開された解法を見てみると、自分が何行も書いて部分点しか獲得できなかった問題が 1 行で満点を取れると書いてあった。私は仰天したが、思いつけなかったことには違いがないので諦めはすぐに付いた。

最終的には銀メダルを獲得した。これは決して悪い結果ではないが、競技中の様々な不調を考えると、もう少し良い点が取ればよかったと思う。

これから IOI に参加する人に何かアドバイスをするとすれば、決して何かに執着しないことである。特に精神の状態で結果に反映されやすい人は執着しない方がいい。私のように金メダルに執着すると邪念を産んでしまう。かえって実力を抑えてしまいかねない。結果に執着するよりは交流することに食欲になったほうが良い。貴重な機会なので、決して無駄にしてはならない。私はそう思う。あともうひとつ。間違った英語を使うことを気にはならない。今回の IOI でいろいろな国の人と会話したが、そこそこの英語で難なく通じた。面白いことに受験大国と言われる韓国や台湾やもちろん日本も、おそろおそろ英語を使う傾向があった。IOI での交流で英語を間違っても成績が下がるわけではないのだから、間違うことを恐れるより、貴重な機会を失うことを恐れたほうが良い。

選手としては最初で最後の IOI であったが、経験から様々なものが得られたと思う。参加を支えてくれた様々な国内外のスタッフには感謝しきれない。本当にありがとうございました。



佐藤 竜馬 君

僕の IOI 初参加はおおむね成功に終わりました。現地の方はとても親切で食事もおいしかったです。しかし、いくつか後悔した点もあるので来年参加する人のために書き留めておきます。

- ・風邪 風邪を引きました。この文章を書いている今も体調が悪くつらいです。ホテルの空調を適切に設定して早めに寝ましょう。
- ・緊張 競技で緊張してしまいました。自分の実力が発揮できることが大切なのであまり思いつめないようにしましょう。焦ったときに愛でられるマスコットを持っていき活用するのが良いです。
- ・携帯端末 僕は携帯端末を持っていきませんでした。今回の IOI では隔離期間以外は常に wifi に接続でき、リアルタイムで状況をツイートすることができました。ぜひ持って行きましょう。

この 3 点以外については今回の IOI はとても快適でした。

外国の選手ともたくさん交流ができました。僕は speaking が苦手でしたが、“ハロー”と“サンキュー”さえ使えばあとは気持ちで交流できます。海外の選手を見かけたら積極的に話しかけましょう。culture trip も非常に楽しかったです。博物館とアトラクションのバランスが絶妙でした。せっかく旅行に来たのだから色々なことにチャレンジすると良いと思います。僕は高いところが苦手ですが、ジェットコースターなどの乗り物はとても楽しむことができました。

それでは最後になりましたが、IOI 委員会の皆様や現地のボランティアガイドの皆様、そして日本選手団の皆様を含む全ての関係者への感謝の言葉でこの文書を結びます。このような素晴らしい体験をさせていただきありがとうございました。



高谷 悠太 君

まず、前日合宿に行くとき、自分だけ成田空港の第 2 ターミナルからバスに乗っていて、他の人たちが全員第 1 ターミナルから乗ってきて驚きました。また、前日合宿では output only の問題などで内容を全く知らない問題が多く、演習不足を感じました。

Day 1 はホテルに着くともう遅く、Taipei Zoo に行くことはできませんでした。Talent Show は疲れていたのでも休んでいました。

Day 2 は practice を一通り解いて、帰ってからは次の日のコンテストに備えて早くに寝ました。

Day 3 には 1 回目のコンテストがありました。これ以上の点は取れないと終わった後に思ったので、悔いは無いです。

Day 4 には Excursion 1 があり、2 つの博物館に行きました。

はじめの方では DIY (Do It Yourself) というものがあり、オカリナをもらったり、コマに色を塗ったりしました。久しぶりでコマを回すことがはじめはできませんでしたが、やり方を教わって、何回かやった後に回せるようになりました。後の方の博物館では Korea や Turkey の選手たちと写真を撮ることができました。

Day 5 には 2 回目のコンテストがありました。解説を見ると、解けなかった 2 つの問題のうちどちらかは解いておきたかったと思いましたが、結果は金メダルを得られたのでうれしかったです。台北 101 にも登りました。

Day 6 には Excursion 2 があり、ジェットコースターやウォータースライダーに乗りました。とても面白くて何回も乗ってしまいました。

Day 7 には表彰式があり、終わった後に USA や China、Russia などの強豪国と写真を撮ることができました。その後は、Farewell Party があり、多くのゲームをすることができました。夜は Korea の人と遊びました。

Day 8 では朝食を食べた後にチェックアウトして、ガイドさんと別れました。そして飛行機の中でこの文章を書いています。

IOI を振り返ってみると、行く前はコンテスト中心だと思っていましたが、観光が多くとても楽しかったです。他国の選手の方々、ガイドさんをはじめとするボランティアの方々、問題文を翻訳して下さった随行員の方々、そして、IOI 代表に選ばれて下さった JOI の方々、ありがとうございました。



※各選手(及び随行役員)の感想文全文はウェブに掲載されています。
<http://www.ioi-jp.org/ioi/2014/comments.html>



第 8 回アジア太平洋情報オリンピック

アジア太平洋地域の地域大会として第 8 回アジア太平洋情報オリンピック (APIO, Asia-Pacific Informatics Olympiad) が 5 月 3 日 (土) にウェブ上オンラインで開催されました。日本からは 29 名が東京ほか全国 5 会場で参加しました。各国参加者のうちの成績上位 6 名だけが代表選手と見なされます。以下の 6 名が日本代表選手として優秀な成績をおさめました。

	氏名	学校名	学年	学校所在地
銀メダル	井上卓哉	開成高等学校	高校 1 年	東京都
銀メダル	隈部 壮	筑波大学附属駒場高等学校	高校 3 年	東京都
銅メダル	伊佐碩恭	開成高等学校	高校 1 年	東京都
銅メダル	増田隆宏	筑波大学附属駒場高等学校	高校 1 年	東京都
優秀賞	佐藤竜馬	大阪府立茨木高等学校	高校 3 年	大阪府
優秀賞	高谷悠太	開成中学校	中学 3 年	東京都

(学年は 2014 年 5 月時点、同賞内氏名 50 音順)



夏季セミナー

8 月 25 日 (月) ~ 29 日 (金) に国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都渋谷区) において夏季セミナーを実施しました。24 名の参加者 (欠席者 1 名) は、講義を聴講したり 6 つのグループに分かれて情報科学の専門書を輪講したりし、最終日には勉強の成果を発表しました。



6 グループに分かれてのセミナー



埼玉大学 情報メディア基盤センター
堀山貴史 准教授 (左) と
株式会社NTTデータ
セキュリティビジネス推進室
塩田明弘 氏 (右) の講義を聴講しました



発表会



参加者とチューター



第14回日本情報オリンピック開催

第27回国際情報オリンピックは2015年7月にカザフスタンで開催される予定です。日本代表選手候補を選抜する第14回日本情報オリンピックは以下のように開催されます。本選の成績上位者にはメダルと副賞が授与され、春季トレーニング合宿に招待されて日本代表選手選抜競技に参加できます。全国を6ブロックに分け、ブロックごとの成績優秀者も表彰します。成績優秀者には多数の大学における入試に関する特典や、夏季セミナーやアジア太平洋情報オリンピックへの優先参加などの特典がありますので、奮ってご応募ください。(詳細は情報オリンピック日本委員会のウェブサイトをご覧ください)

応募資格 : 次の2つの条件を満たす者:

1. 2015年2月8日(日)の第14回日本情報オリンピック本選競技実施時点で高等学校、高等専門学校、中学校、中等教育学校、小学校、特別支援学校に在学し、学年が高等学校2年以下(中等教育学校や高等専門学校などの在校生は高等学校2年に相当する学年以下)であること。日本国内において学校以外の初等・中等教育機関に所属している人は個別に相談。
2. 生年月日が1995年4月2日以降であること。

予選 : 2014年12月14日(日)にウェブ上オンラインで実施する予定です。ウェブから申し込みができ、学校のPC教室や自宅等において参加できます。

本選 : 2015年2月7日(土)～8日(日)に東京会場で実施します。参加者には交通費を補助いたします。

予選を通過した人だけが参加できます。本選と併催して参加者交流セミナー等を開催します。

競技内容 : 与えられた問題を解くために、プログラムを書き、実行して正しい答を出力させます。高校生レベルまでの数学とプログラミングの知識が必要です。予選ではプログラミング言語の種類を問いませんが、本選ではC/C++だけが使えます。

参加料 : 無料

申込方法 : 2014年12月12日(金)24:00までに情報オリンピック日本委員会のウェブサイトよりお申込みください。

結果発表 : 予選・本選それぞれ終了後、本人に電子メールで通知します(予選成績をウェブサイトでご覧いただけます)。

大学推薦入試・AO入試などの資格 :

予選や本選の成績優秀者及び国際情報オリンピック日本代表に選ばれた人には、以下の資格などが与えられます。

- ・大阪大学理学部・工学部・基礎工学部科学オリンピックAO入試の応募資格…国際情報オリンピック日本代表選手
- ・東京工業大学推薦入試 第1類(理学部)の応募資格…国際情報オリンピック日本代表選手
- ・早稲田大学理工系3学部 特別選抜入試「情報オリンピック入試」受験資格…本選Aランク者
- ・慶應義塾大学総合政策学部・環境情報学部・理工学部 AO入試1次選考免除…本選Aランク者
- ・東北大学理学部・工学部 特別選抜入試(科学オリンピック)出願資格…本選Aランク者
- ・立命館大学生命科学部 AO入試出願資格…本選Aランク者
- ・筑波大学情報学群(情報科学類・情報メディア創成学類)国際科学オリンピック特別選拔出願資格…本選Aランク者
- ・関西大学総合情報学部AO入試【活動実績評価型】第1次試験合格…本選Bランク者以上
- ・国際基督教大学教養学部 AO入試Bカテゴリー出願資格…本選Aランク者
- ・会津大学コンピュータ理工学部推薦入試出願資格…本選Aランク者
- ・早稲田大学教育学部自己推薦入試応募資格
- ・予選の成績優秀者へ資格を与える大学: 広島大学医学部AO入試応募資格、東洋大学総合情報学部自己推薦入試(資格取得者入試)応募資格、東京理科大学理学部第一部数理情報科学・応用物理学科・化学科・応用化学科SSE推薦入学出願資格、中央大学理工学部数学科&情報工学科自己推薦入試応募資格、東京女子大学現代教養学部AO入試2次選考小論文免除、東邦大学理学部各学科へのAO入試1次選考免除、専修大学ネットワーク情報学部、千葉大学理学部・工学部先進科学プログラム(飛び入学)学生選抜特典詳細は<http://www.ioi-jp.org/privilege.html> をご覧ください。



協賛・後援・提携

情報オリンピック日本委員会の活動は、独立行政法人科学技術振興機構、株式会社NTTデータ、富士通株式会社ほかのご支援をいただいています。

また、日本情報オリンピックは、文部科学省、情報処理学会、日本ソフトウェア科学会、電子情報通信学会、日本教育工学会、教育システム情報学会、独立行政法人国立高等専門学校機構、全国高等学校長協会、社団法人全国工業高等学校長協会からご後援をいただいております。スーパーコンピューティングコンテスト、全国高等学校パソコンコンクール、全国高等専門学校プログラミングコンテストと提携しています。



独立行政法人科学技術振興機構



株式会社NTTデータ



富士通株式会社



情報オリンピック
に参加しよう!

No.17 2014年10月15日発行

編集・発行

(特非)情報オリンピック日本委員会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 7-26-37-2D

TEL: 03-5272-9794 (FAX: 03-5272-9791)

E-mail: info@ioi-jp.org

<http://www.ioi-jp.org/>